



## コロナ禍がもたらすパラダイムシフト

伊澤 淳†

### Paradigm Shift by Coronavirus Crisis

Jun IZAWA†

明けましておめでとうございます。昨年は如何お過ごしでしたか。さて2020年の年明けに新型コロナウイルスの脅威が明らかになって以来、2年ほどが経ちました。これまでご本人あるいはご関係の方々に感染により苦しい思いをされた方々におかれましては謹んでお見舞い申し上げます。このウイルスは皆様方の健康に害を及ぼすだけでなく、従来とは桁違いの感染力により人との交流などの社会活動を破壊するという、これまでに経験のなかった脅威です。ワクチンや治療薬の開発・普及にも目途が立ってきたとはいえ、多数の変異株の発生など完全撲滅には程遠い印象があり、当面の間はコロナ禍と共に暮らすWithコロナの社会となりそうです。学会活動においても、コロナ禍の前では直接お会いしての学会や研究会での発表・議論が当たり前に行われていました。このように直接お会いしての議論は互いの研究の質を高め、かつ情報を集めるのに大変貴重な機会でした。現在では3密を避けるためウェブ会議システムを用いたオンラインでの会合が主体となり、用件を伝えることはできても膝を詰めての話というのが難しくなり、少々歯がゆいものがあります。

コロナ感染拡大の落ち着きにより、今後の会合は対面に戻っていくと思われませんが、一方でオンラインならではの利点もあり、今後もオンラインの会合や、両者のハイブリッド開催も継続されると思われれます。オンラインのメリットとしては、例えばこれまで会えなかった方との交流が可能となったことがあります。遠方で気軽に訪問することができない場合や、近場であっても多忙により移動時間を加えた予定を確保できない場合でもオンラインで容易に会合をすることができるようになりました。会合のハードルが下がったことにより、新たな出会いの機会も増えました。ところで、ウェブ会議システム自体は10年以上前から存在しており当時から同様のことが可能でしたが、あまり普及はしていませんでした。何故でしょうか？私見としては、オンラインで会合をすることへの社会的コンセンサスが得られていなかったことが最大の理由と考えています。かつて電子メールがスタートしたころにも用件は直接伝えるのが基本(少なくとも電話)という考えが主流であり、電子メールが電話よりも優先されるようになるまでにはしばらくの年月がかかりました。ウェブ会議もコロナ禍前は面着が基本との意見が強くなかなか普及しませんでした。状況がコロナ禍によって一変しました。かつての電子メールとは比較にならない速さでインフラの整備や社会的合意が進み、一般的な会合の手段として認知されました。働く場所についても同様です。コロナ禍以前では仕事は出社して行るのが基本という考えが主流でした。それがコロナ禍によってノートPCの配布や在宅勤務の制度整備が一気に進み、オンライン会合の導入も相まって瞬間に在宅勤務が主流となりました。その一方で在宅勤務の併用を前提としたオフィス設備の規模縮小も行われ、今後も在宅勤務を併用する働き方が続いていきそうです。

このようにある出来事をきっかけに社会の概念や考え方の劇的な変化(パラダイムシフト)が起こると、新たな研究開発のテーマやビジネスチャンスにもつながるはずですが、昨今の状況から未来を洞察して課題を考え、それを現在につなげて考えることが取り組むべき研究テーマの立案にあたり有効な手段となります。コロナ禍によって社会がどのように変化したか・するかを考え、それに向けて何が必要かを考えていくことで今為すべきことが見えてきます。前述の話はほんの一例ですが、有識者が考えた社会洞察もインターネットなどで容易に入手可能であり、参考になります。これはコロナ禍に限らず、その他の様々な社会問題についても同様です。レーザー研究でも、21世紀初頭に「21世紀レーザーワールド」と題して、21世紀におけるレーザー技術の関わりについてのイラスト・解説が掲載されました(2001年1月号)。20年余りが過ぎた今、見返してみると実現されている技術も数多く見られ、未来洞察の有効性を感じました。皆様の考える未来社会はどのようなものでしょうか？そして、その社会でレーザー技術や皆様のご研究の成果はどのような役割を担っているのでしょうか？

末筆となりましたが、今年もまた皆様にとって良い一年となることを願っております。

† (株)IHI(〒235-8501 神奈川県横浜市磯子区新中原1番地)

† IHI Corporation, 1, Shin-nakahara-cho, Isogo-ku, Yokohama, Kanagawa 235-8501